令和８年度　公立学校教員採用候補者選考試験問題

特別支援教育

注意１　答はすべて解答用紙の解答欄に記入すること。
注意２　「障がい」の記載について、法令、学習指導要領、学習指導要領解説等からの引用によるものは、「障害」と表記した。
注意３　解答用紙への「障がい」の表記については、「障がい」、「障害」または「障碍」のいずれを記入してもよい。

第１問題　「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」（文部科学省　令和３年６月）に示されている就学に関する事前の相談・支援及び就学先の決定に関する次の問に答えよ。

問１　就学に関する説明として、正しいものには○、誤っているものには×で答えよ。

A　就学先となる学校や学びの場の判断・決定に当たっては、障がいのある子供の障がいの状態のみに着目して検討を行うことが望ましい。

B　就学先となる学校や学びの場について、教育支援委員会等において検討を行うとともに、市区町村教育委員会が総合的な判断を行い、本人及び保護者、教育委員会及び学校との合意形成を進めた上で、最終的には県教育委員会が決定することとなる。

C　子供一人一人の障がいの状態等を把握して教育的ニーズを明確にし、具体的にどのような支援の内容が必要とされるかということを整理することが重要である。

D　法令に基づいて本格的な就学手続が開始される以前の適切な時期に、就学に関する説明や相談、学校見学、体験入学など、計画的に実施していくことが極めて重要である。

問２　就学に関する事前の相談・支援の実施に当たって、本人や保護者に分かりやすく説明すべきことについて、具体的に二つ答えよ。

第２問題　次の文は「高等学校等の病気療養中等の生徒に対するオンデマンド型の授業に関する改正について（通知）」（４文科初第2563号 令和５年３月30日）に示されている「３ 留意事項（１）（２）」である。空欄［ア］～［エ］にあてはまる語句を、A～Fから選び、記号で答えよ。

（１）病気療養中等の生徒に対し、［ア］を利用して授業を実施する場合、［イ］の授業を原則とすること。当該生徒の病状や治療の状況、医師等の意見等から、配信側の授業時間に合わせて［イ］の授業を受信することが難しいと学校において判断した場合に限り、本人及び保護者の意向を踏まえ［ウ］の授業を行うことが可能であること。
（２）生徒が疾病による療養のため又は障害のため、相当の期間高等学校を欠席する状態にあるか否かの判断は、疾病や障害に関する医師等の専門家による診断書等や、文部科学省が義務教育段階における就学事務の参考資料として作成し配布している「障害のある子供への教育支援の手引」に示された障害種ごとの障害の状態等を基に、文部科学省が平成26年度に実施した長期入院児童生徒に対する教育支援に関する実態調査で示された年間延べ［エ］日以上の欠席という定義を一つの参考としつつ、高等学校又はその管理機関が行うこととすること。

A　オンデマンド型　　B　ハイフレックス型　　C　メディア　　D　同時双方向型
E　60　　F　30

2025 kyosai-guild.jp

第３問題　「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」（文部科学省　令和３年６月）に示されている学習障がいに関する次の問に答えよ。

問１　次の文は、学習障がいの定義について述べたものである。空欄［ア］～［ウ］にあてはまる語句を答えよ。

> 学習障害とは、全般的に［ア］に遅れはないが、聞く、［イ］、読む、書く、計算する又は［ウ］といった学習に必要な基礎的な能力のうち、一つないし複数の特定の能力についてなかなか習得できなかったり、うまく発揮することができなかったりすることによって、学習上、様々な困難に直面している状態をいう。

問２　学習障がいの状態等を的確に把握するため、日々の学習の様子の観察ではどのような点に留意しながら情報を把握することが大切か、簡潔に二つ答えよ。

問３　学習障がいのある児童生徒に対する教育内容や教育方法について述べた次の記述のうち、適切なものをＡ～Ｆから三つ選び、記号で答えよ。

Ａ　読み書きや計算に困難さがある児童生徒については、合理的配慮として、一律にパソコンやタブレット端末の使用を認めていく必要がある。

Ｂ　教育方法として、身体感覚の発達を促すために、身体を使うような活動を取り入れることも有効である。

Ｃ　苦手なことを本人の認知特性を考慮しながら、他の能力で補完するような指導を行うとよい。

Ｄ　評価に関しては、公平性の観点から、例えば算数のテストで答えの単位の漢字が間違っている場合は減点対象とする必要がある。

Ｅ　苦手な学習があることで、自尊感情が低下している場合には、成功体験を積ませ、教職員や友達、保護者から認められる場面を積極的に設けるとよい。

Ｆ　特定の学習内容を習得することが難しい場合であっても、本人の心理面に配慮し、学習内容の変更・調整は避ける必要がある。

2025 kyosai-guild.jp

第４問題　次の文は、「各教科等の指導におけるＩＣＴの効果的な活用について【概要】」（文部科学省　令和２年９月）からの一部抜粋である。後の問に答えよ。

新学習指導要領に基づき、［ア］の三つの柱をバランスよく育成するため、子供や学校等の実態に応じ、［イ］や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてＩＣＴを積極的に活用し、［ウ］・［エ］で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要。

問１　［ア］～［エ］にあてはまる語句をＡ～Ｈから選び、記号で答えよ。

Ａ　協働的　　Ｂ　資質・能力　　Ｃ　対話的　　Ｄ　素養・能力　　Ｅ　各教科等の学び

Ｆ　自発的　　Ｇ　各教科等の特質　　Ｈ　主体的

問２　聴覚障がいのある児童生徒に対して指導の効果を高めるために、ＩＣＴをどのように活用することが考えられるか、簡潔に二つ答えよ。

問３　知的障がいのある児童生徒に対して指導の効果を高めるために、ＩＣＴをどのように活用することが考えられるか、簡潔に二つ答えよ。

第５問題　次の問は、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」（文部科学省　令和３年６月）に示されている内容に関するものである。次の問に答えよ。

問１　視覚障がいの内容に関して、次の問に答えよ。

（１）視覚障がいに関する以下の記述のうち、適切なものをＡ～Ｄから二つ選び、記号で答えよ。

Ａ　医療によって視機能が回復する場合は、視覚障がいに含めない。

Ｂ　視機能は、視力と視野の二つの機能である。

Ｃ　視覚障がいとは、視力障がい、視野障がい、光覚障がいの三つの障がいのことをいう。

Ｄ　片眼だけに視機能低下がある場合は、視覚障がいとはいわない。

（２）視覚障がいのある子供にみられる行動等の特徴に関する以下の記述のうち、適切なものをＡ～Ｄから二つ選び、記号で答えよ。

Ａ　視野狭窄がある場合、横から近づいてくるものに気付かないことや、歩いていて段差に気付かないことがある。

Ｂ　文字や形態等の情報を捉え視覚で認知することが難しい場合、聴覚のみの感覚を活用して行動する。

Ｃ　視力が低くない場合は、視覚を活用して活動することができるが、見ようとするあまり、見たいものに目を近づける特徴が見られる。

Ｄ　視覚障がいのある子供の生活上、学習上の困難な状態は、本人の能力や性格により影響をうけることはない。

（３）視覚障がいのある子供の学びの場には、小中学校等の通常の学級、通級による指導（弱視）、弱視特別支援学級があるが、その他の学びの場を記せ。

2025 kyosai-guild.jp

（4）視覚障がいのある子供の教育における合理的配慮を含む支援の内容について、誤っているものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

A　見えにくさに応じた教材及び情報の提供を行う。

B　実物や模型に触る等の学習活動は、見えにくさからの概念形成の難しさを補うための支援にはならない。

C　学習の予定を事前に知らせ、学習の過程や状況をその都度説明することで、主体的に状況の判断ができるように指導する。

D　自己の視覚障がいを理解し、眼疾患の進行や事故を防止できるように、身の回りの状況が分かりやすい校内の環境作りを図り、見えにくい時には遠慮せずに尋ねられるような雰囲気を作る。

問2　聴覚障がいの内容に関して、次の問に答えよ。

（1）　聴覚障がいに関する以下の記述のうち、誤っているものをA～Cから一つ選び、記号で答えよ。

A　伝音難聴と感音難聴の両方が併存することがある。

B　感音難聴を末梢神経性（迷路性又は内耳性）難聴と中枢神経性（後迷路性）難聴に分けることもある。

C　振動としての音が内耳に伝わる経路には、音が外耳、中耳を通っていく経路（骨伝導、骨導）と、頭蓋の振動となって直接内耳を振動する経路（空気伝導、気導）とがある。

（2）「感音難聴」の聞こえの状態を簡潔に説明せよ。

（3）　次の文が説明している人工臓器の名称を答えよ。

現在、世界で普及している人工臓器の一つで、難聴があって補聴器での装用効果が不十分である際に手術の適応となり得る。一般的には、平均聴力レベル90dB以上の高度難聴で、少なくとも６か月間補聴器を試みても聴覚活用ができない場合であるとされる。手術的に蝸牛に電極（インプラント）を埋め込むプロセスと、外部装置（プロセッサ）を調整して装用するプロセスが必要となる。

（4）　聴覚障がいのある子供の教育的対応として、「早期発見」と「早期からの教育」が重要である理由を、簡潔に二つ記せ。

第６問題　次の問に答えよ。

問1　「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　第７章　自立活動　第２　内容」（文部科学省　平成29年４月）には、自立活動の内容が示されている。次のア～オに示す自立活動の内容はそれぞれどの区分に該当するか、A～Fから選び、記号で答えよ。

ア　障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	イ　情緒の安定に関すること
ウ　他者とのかかわりの基礎に関すること	エ　作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること
オ　言語の受容と表出に関すること	カ　認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

A　健康の保持　　B　心理的な安定　　C　人間関係の形成　　D　環境の把握

E　身体の動き　　F　コミュニケーション

2025 kyosai-guild.jp

問2　「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）　第７章　自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取扱い」（文部科学省　平成30年３月）では、自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取扱いにおいて、長期の指導目標については、今後の見通しを予測しながら、指導すべき課題を再整理し、指導目標を適切に変更しうるような弾力的な対応が必要であるとしているが、その理由を簡潔に一つ記せ。

問3　自立活動の具体的な指導内容を設定する際に考慮することについて述べた以下の記述のうち、適切なものをＡ～Ｄから二つ選び、記号で答えよ。

Ａ　個々の児童又は生徒が、自立活動における学習の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し、取り組めるような指導内容を取り上げること。

Ｂ　発達の遅れている側面や改善の必要な障害の状態のみに着目した内容を取り上げること。

Ｃ　個々の児童又は生徒が、活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容を計画的に取り上げること。

Ｄ　個々の児童又は生徒に対し、自己選択、自己決定する機会を設けることによって、自己責任の意識を高めることができるような指導内容を取り上げること。

問4　自立活動の学習の評価を行う際に取り組むべき大切なことについて述べた以下の記述のうち、誤っているものをＡ～Ｃから一つ選び、記号で答えよ。

Ａ　多面的な判断ができるように、必要に応じて外部の専門家等との連携を図っていく。

Ｂ　幼児児童生徒が障がいのある自分を知り、受け止め、それによる困難を改善しようとする意欲をもつことが期待されるため、幼児児童生徒の実態に関わらず、必ず自己評価を取り入れるようにする。

Ｃ　保護者に、学習状況や結果の評価について説明し、幼児児童生徒の成長の様子を確認してもらうとともに、学習で身に付けたことを家庭生活でも発揮できるよう協力を求めることが大切である。

2025 kyosai-guild.jp

第7問題　個別の教育支援計画に関する次の問に答えよ。

問1　次の文は「個別の教育支援計画の参考様式について」（文部科学省　令和3年6月）の個別の教育支援計画の説明である。空欄［ア］～［エ］にあてはまる言葉を、A～Fから選び、記号で答えよ。

「個別の教育支援計画」は、障害のある児童生徒が生活の中で遭遇する制約や困難を改善・克服するために、本人及び［ア］の意向や将来の［イ］などを踏まえ、在籍校のみならず、例えば、家庭、［ウ］や福祉機関等と、実際にどのような支援が必要で可能であるか、支援の目標を立て、それぞれが提供する支援の内容を具体的に記述し、支援の内容を整理したり、関連付けたりするなど関係機関の［エ］を明確にするためのツールです。

A　教員　　B　希望　　C　保護者　　D　就労先　　E　医療　　F　役割

問2　個々の児童生徒の実態を把握したり共通理解したりするために参考となる考え方で、障害状況を「健康状態」「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」の相互作用として捉えているＷＨＯの考え方の名称を答えよ。

問3　個別の教育支援計画の在籍校において提供される教育的支援の内容は、各教科等の個別の指導計画に生かしていくことが重要であるが、その理由を簡潔に一つ記せ。

問4　個別の教育支援計画の活用に当たって、留意しなければならないことについて、「同意」と「適切な取扱い」の用語を使って、簡潔に答えよ。

第8問題　知的障がいに関する次の問に答えよ。

問1　次の文は「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」（文部科学省　令和3年6月）に関する記述である。空欄［ア］、［イ］にあてはまる言葉を、A～Gから選び、記号で答えよ。

知的障害とは、一般に、同年齢の子供と比べて、「［ア］や言語などにかかわる知的機能」の発達に遅れが認められ、「他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力」も不十分であり、特別な支援や配慮が必要な状態とされている。また、その状態は、［イ］的・社会的条件で変わり得る可能性があると言われている。

A　認知　　B　推理　　C　福祉　　D　疾病　　E　体力　　F　環境　　G　発達

問2　次のA～Dのうち、実態把握のための適応機能検査として適切なものを、A～Dから一つ選び、記号で答えよ。

A　ＷＩＳＣ　　B　Ｋ－ＡＢＣ　　C　新版Ｋ式発達テスト　　D　新版ＳＭ式社会能力検査

2025 kyosai-guild.jp

問3　知的障がいのある児童生徒の教育的対応の基本ついて述べた以下の記述のうち、適切なものをA～Dから二つ選び、記号で答えよ。

A　児童生徒一人一人の発達の側面に着目し、意欲や意思、情緒の不安定さなどの課題に応じるとともに、児童生徒の精神年齢に即した指導を徹底する。

B　望ましい社会参加を目指し、日常生活や社会生活に生きて働く知識及び技能、習慣や学びに向かう力が身に付くよう指導する。

C　抽象的な活動を学習活動の中心に据え、模擬的な状況下で指導するとともに、できる限り児童生徒の成功経験を豊富にする。

D　自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する。

問4　**図**は文部科学省著作教科書「国語☆☆☆☆」の題材「いろいろな標識・表示」を表したものである。本題材では、学校や町、公共施設等で見かける表示、標識や案内板、様々な店の看板やポスター等が表す意味を考え、判断したり行動したりすることをねらいとしている。生徒が実生活の中で実際の標識や表示に注目したり、意味を考えて行動したりすることにつなげるために留意することを簡潔に二つ記せ。

著作権等保護の観点から掲載いたしません。

図

2025 kyosai-guild.jp

令和８年度　解答用紙

特別支援教育	１／３枚中	受験番号

第１問題

問１	A	×（１点）	B	×（１点）	C	○（１点）	D	○（１点）

問２	支援体制を含む基礎的環境整備の状況と教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容に関する状況
	就学先となる学校や学びの場は固定的なものではなく、実際の就学先決定後も障害の状態等を踏まえ、転学や学びの場の変更が可能であり、柔軟なものであること　（６点）３点×２

第２問題

ア	C（１点）	イ	D（１点）	ウ	A（１点）	エ	F（１点）

第３問題

問１	ア	知的発達（２点）	イ	話す（２点）	ウ	推論する（２点）

問２	教科学習において著しい遅れがある特定の教科等がないか
	ノートや提出物、作品、宿題の取組状況、読み書きに関するチェックリスト等の活用 （６点）　３点×２

問３	B（１点）	C（１点）	E（１点）

第４問題

問１	ア	B（１点）	イ	G（１点）	ウ	H（１点）	エ	C（１点）

問２	電子黒板や大型ディスプレイを活用し、教科書や資料等を拡大提示（視覚化）する
	文字変換ソフト等を活用し、授業中の発話を視覚的に提示する （６点）　３点×２
問３	学習ソフトを活用し、抽象的な事柄を視覚的に理解できるようにする
	デジタル絵カード等を活用し、発語による意思表示を代替する （６点）　３点×２

整理番号	

（この欄は記入しないこと）

2025 kyosai-guild.jp

令和８年度　解答用紙

特別支援教育	２／３枚中	受験番号

第５問題

問１	（１）	A （１点）	D （１点）
	（２）	A （１点）	C （１点）
	（３）	視覚障がい特別支援学校（盲学校） （２点）	
	（４）	B （１点）	
問２	（１）	C （１点）	
	（２）	音がひずんで聞こえる （３点）	
	（３）	人工内耳 （３点）	
	（４）	幼いうちに適切な対応がなされないと、聴覚を活用する能力や言葉の発達に大きな影響が及ぶため （３点）	
		コミュニケーションや人間関係の形成にも支障をきたしたり、物事の理解や概念の形成など学習面にも困難が生じたりするなど発達の様々な側面に影響が及ぶため（３点）	

第６問題

問１	ア	A （１点）	イ	B （１点）	ウ	C （１点）	エ	E （１点）	オ	F （１点）
	カ	D （1 点）								
問２	幼児児童生徒の障がいの状態等が変化する可能性があるため （３点）									
問３	A （１点）		C （１点）							
問４	B （１点）									

整理番号	

（この欄は記入しないこと）

2025 kyosai-guild.jp

令和８年度　解答用紙

特別支援教育	３／３枚中	受験番号

第７問題

問１	ア	C （１点）	イ	B （１点）	ウ	E （１点）	エ	F （１点）
問２	ＩＣＦ（国際生活機能分類） （２点）							
問３	児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討する際の情報となるため（３点）							
問４	保護者の同意を事前に得るなどの個人情報の適切な取扱いに十分留意することが必要であるため（３点）							

第８問題

問１	ア	A （１点）	イ	F （１点）
問２	D （１点）			
問３	B （１点）		D （１点）	
問４	生徒が実生活で見かける標識や表示を教材とすること（３点）			
	実際に標識や表示を探す活動を設定すること（３点）			

整理番号	

（この欄は記入しないこと）

2025 kyosai-guild.jp